

日交研シリーズ A-830

令和2年度自主研究プロジェクト

「夜の生活活動と健康を支える都市と交通のあり方に関する研究」

刊行：2022年5月

夜の生活活動と健康を支える都市と交通のあり方に関する研究  
City and Transportation for Safe, Secure, Comfortable and Healthy Nighttime Activities

主査：大森 宣暁（宇都宮大学）

Nobuaki OHMORI

要 旨

24時間化した現代の都市においては、人々の生活の質を向上させる視点から、「住む」、「働く」、「憩う」、「往来する」という都市社会の4要素を、時間軸を考慮してバランスよく配置することが重要な視点である。しかし、従来の都市計画は、昼間の都市活動を主たる計画対象とし、夜間の都市活動が幾分疎かにされてきた感が否めず、人々が、安全・安心・快適に、夜間の活動に参加できる環境が整備されているとは言い難い。本プロジェクトメンバーらは、これまでの研究プロジェクトおよび土木計画学研究発表会における夜の都市計画セッション等において、夜の活動主体、夜の活動機会提供主体、夜の活動計画・管理・運営主体等、多様な関係者を交えて、人々の夜の生活活動における現状と課題等について議論を行い、都市・交通計画の分野における学術的な研究の必要性を再認識した。以上の背景から本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に夜間の自宅内外の生活活動に参加でき、生活の質を向上させる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。

繁華街活性化を目的とした一連の実験・調査の結果、光演出を活用した街路の印象改善や屋外飲食空間設置が繁華街の魅力向上につながる可能性があること、スタンプラリーなどのしかけにより実際に繁華街に足を運んでもらうことによって、認知度や印象が向上する人が一定の割合存在すること、夜の繁華街の街路景観の印象評価に、照度、色温度、植栽の有無が影響を与えること等が明らかとなった。さらに、ウランバートルの大学生にとっては、自宅周辺の余暇活動へのアクセシビリティよりも、大学周辺の余暇活動へのアクセシビリティが、余暇活動の満足度および幸福度に影響を与えることが明らかとなった。

キーワード：夜、活動、都市、交通

Keywords : nighttime, activity, city, transportation